



『富士山うたごよみ』(E7)
 俵万智/短歌・文 U・G・サトー/絵
 福音館書店

立春から大寒まで一。
 二十四節気に合わせて、俵万智さんが短歌を詠み、U・G・サトーさんの描く富士山が彩りを添えます。
 表情豊かな四季の富士山。
 あれ、こんなところにも富士山が…！



『絶叫委員会
 天使的な言葉たちについての考察』(ホム)
 穂村弘/著 筑摩書房

偶然、いや必然的にとびだした、何か不思議でおかしみのある「天使的な言葉」たちを集めた名(迷?)言集。
 「言い間違い」とは少しちがう、じわじわと効いてくる無数の「詩」を味わってみよう。

『さかさまかさ』(Eサ)
 ピーター・ニューエル/作 高山宏/訳 亜紀書房



どうぞ、本の上と下をひっくりかえしてみてください。
 あら、ふしぎ！さっきはみえなかった新しい絵とおはなが次々に現れては消えていきます。
 19世紀アメリカの天才画家ピーター・ニューエルが贈るちょっとヘンテコなしかけ絵本。

利用案内

- ◆大和郡山市に在住・在学・在勤の方は、利用者カードを作ることができます。
- ◆8冊まで、2週間借りられます。
- ◆貸出中の本の予約、所蔵していない本のリクエストができます。
- ◆司書が調べ物のアシストをします。探している本が見つからないときは、お気軽にお尋ねください。

図書館のホームページから本の予約・延長ができます

- ◇パスワードを登録→ 貸出中の本の予約
 貸出本の延長(予約が入っている場合は不可)
- ◇メールアドレスを登録→ 予約本の取置をメールでお知らせ

※「libraryyk@yamatokoriyama-library.jp」が受信できるよう受信設定をご確認下さい。

【P C】 <https://www.yamatokoriyama-library.jp/>
 【携帯】 <https://www.yamatokoriyama-library.jp/toshoi/>

【開館時間】
 9:30~19:00 (土曜日のみ 9:30~21:00)

【休館日】
 毎週火曜日、第1・第3水曜日
 年末年始 特別整理期間

【大和郡山市立図書館】
 大和郡山市北郡山町211-3 やまと郡山城ホール内
 Tel: 0743-55-6600

yondoco

中学校・高校版 第20号 2016.12発行
 図書館おすすめの本 ()内は、分類です。



『世界で一番の贈りもの』(Nモパ)
 マイケル・モーパーゴ/作
 マイケル・フォアマン/画 佐藤見果夢/訳 評論社

秘密の引き出しの中からみつけた小箱には、戦場の兵士から妻へ宛てた一通の手紙が入っていた。
 そこには信じられないような出来事が書かれていた。

第一次世界大戦中のクリスマスにあった、奇跡のような本当のお話です。



『カラスの教科書』(488)
 松原始/著 雷鳥社

あちこちで見かける身近な鳥、カラス。こんなに近くにいるのに、知らなかった意外な事だらけ！
 憎らしい時もある彼らですが、知ると可愛く思えるかも？
 奈良出身の著者による、カラス愛にあふれた一冊です。

『カラスの補習授業』で補習も受けられます！



『ゆきがふる』(Eユ)
 蜂飼耳/ぶん 牧野千穂/え
 ブロンズ新社

ゆきがふる。
 ふわふわしんしんふりつもる。
 ゆきのひにだけあらわれるみち。
 まだだれもおったことのないみち。
 このさきについてみよう。

詩人・作家蜂飼耳の美しいことばで綴る、この冬いちばんつめたくあたたかな物語。



『みつばち高校生 富士見高校養蜂部物語』
(646)
森山あみ/著 リンデン舎 サンクチュアリ出版

サラリーマン家庭で育った千春。とくに目標もなく、なんとなく将来は農家のお嫁さんになりたいと進学した高校で出合ったのは…養蜂！ひとりの女子高生が「養蜂部」をつくり、「農業高校の甲子園」ともいわれる全国大会で優勝するまでを綴ったノンフィクション。



『ピーカーくんとそのなかまたち
この形にはワケがある！ゆかいな実験器具図鑑』
うえたに夫婦/著 誠文堂新光社 (407)

誰でも知っているピーカーやプレパラートをはじめ、たくさんの実験器具たちを紹介しています。"ナシプラスコとナスプラスコは名前も形もとても似ているけれどちょっと違う、なんて、テストにはまず出ません。だけど、理科室に行くのが楽しくなることうけあいです。



『誰かのために鐘を鳴らす』(ヤマ)
山本幸久/著 KADOKAWA

廃校間近の高校に通う錫之助は、音楽室の片付けを頼まれ、そこでハンドベルを見つけ、同級生を誘って、部を立ち上げるが、目的は女子高との合同練習。しかし、ハンドベルの音色に魅せられ、演奏の楽しさにはまってしまう。



『小さな本の数奇な運命』(Nケル)
アンドレーア・ケルパーケル/著 望月紀子/訳 晶文社

古書店の片隅で買い手が現れるのを待っている、ある一冊の本。この本が主人公。廃棄処分の恐怖に耐えながら、なんとか自分を売り込もうとしたり、他の本に嫉妬したりとウィットに富んだ語りがなんともおもしろい。



『永遠の出口』(モリ)
森絵都/著 集英社

簡単に友達を仲間はずれにできた小学生時代。母のすべてがウザイと思っていた中学生時代。愛と呼ぶにはあまりにも青い恋愛だった高校生時代。その時その時の「永遠の出口」を求めて成長する少女。だれもが経験する感覚にきつと胸が切なくなります。

『くらべる東西』(361.4)
おかべたかし/文 山出高士/写真 東京書籍



同じものでも関東と関西ではどう違う。たとえば、いなり寿司の形。東は俵型、西は三角形。猫の尻尾。カギ形が多いのが東、真っすぐな形が多いのが西。なぜこんな違いが生まれたのか？文化・風俗の違いを一目でわかるよう写真で紹介。



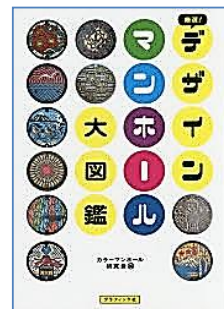
『世界の国々と祝日
その国は何を祝っているのか』(386.9)
本村凌二/監修 理論社

祝日には、それぞれの国の歴史や宗教、政治、物事の考え方などがあらわれている。国が違えば、祝日かわる。宗教違えば、祝日かわる。元旦がなかったり、聞いた事もない祝日があったり。世界の国々を知る手がかりとなる一冊。



『空白の五マイル』
チベット、世界最大のツアンポー峡谷に挑む』
角幡唯介/著 集英社 (292.2)

世界中の探検家が目指したチベット、ツアンポー峡谷。大学探検部時代から、その地に憧れを抱いていた著者が、ツアンポー前人未踏の五マイル部分に挑む。第三章「若きカヌーイストの死」は淡々とした文章だが泣ける。著者がこの探検の結果得た答えが胸を打つ。



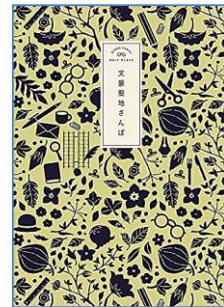
『厳選！デザインマンホール大図鑑』
(518)
カラーマンホール研究会/編 グラフィック社

ふだんは見過ごしている道路のかさぶたみたいなマンホール。よくよく見れば、地域の歴史や特産物などがデザインされていてこんなにも多彩です。今、注目されているマンホールをさがして、たまには下を向いて歩いてみよう。

『びっくり どっきり 寄生虫～だれかが、きみを食べている～』(Eビ)
ニコラ・デイビス/文 ニール・レイトン/絵
唐沢則幸/訳 荒木潤/監修 フレーベル館



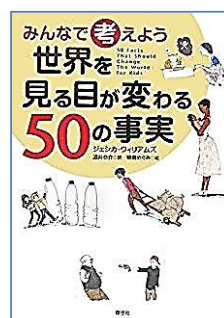
人間も含め、地球上の動物のほとんどは寄生虫の「すみか」だった！ちっちゃなダニから30メートルもあるサナダ虫まで、人間の体の表面や中にすむ寄生虫の、びっくりどっきりな生態をユーモラスに紹介。



『文豪聖地さんぽ』(910.2)
一迅社

明治から昭和期に活躍した芥川龍之介や太宰治、谷崎潤一郎、森鷗外などの文豪の生涯を紹介。

彼らの愛した味、宿などの聖地を写真入りで楽しめます。



『みんなで考えよう
世界を見る目が変わる50の事実』(30)
ジェシカ・ウィリアムズ/著 酒井泰介/訳
朝倉めぐみ/絵 草思社

・自動車は毎分、2人を殺している
・肥満の人の3人に1人は発展途上国に住んでいる
・ロンドンの住民は、監視カメラで1日300回撮影されている
いったい、どうしてこんなことに？知れば遠い国とのつながりがみえてくる。